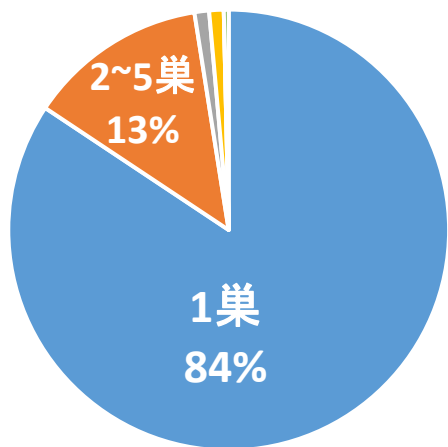


一か所の建物に巣は何個あったか？ ～巣数の割合～



単独営巣

ペア同士が一定の距離をとってそれぞれの場所で巣を作り、繁殖すること。

集団営巣

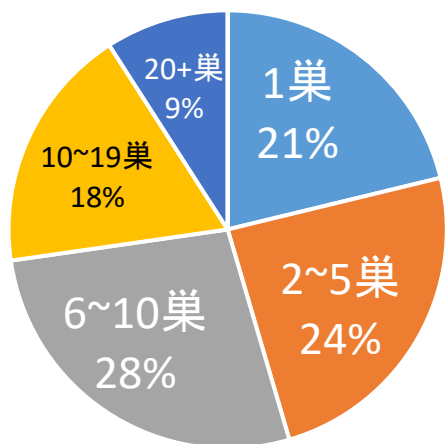
複数のペアが同じ場所に集まり、近い距離でそれぞれで巣を作り、繁殖すること。

ツバメ (計281巣)

→単独営巣

1巣が237件と最も多く、80%

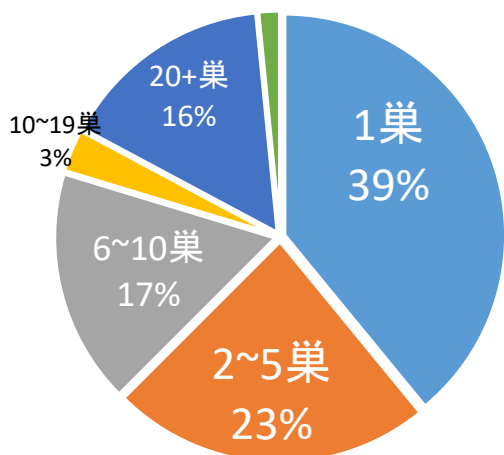
以上を占め、ツバメは1巣で子育てする傾向が強いことが分かりました。しかし、6~10巣，10~19巣も1%ずつ（3件ずつ）あり、現地調査で確認がする必要があるようです。



イワツバメ (計33巣)

→集団営巣

6~10巣が28%（9件）と最も多かったが、1巣だけから10~19巣までいずれも20%前後見られた。2巣以上の割合は79%を占め、集団で子育てする傾向にあることが示されました。



コシアカツバメ (計64巣)

→単独営巣と集団営巣

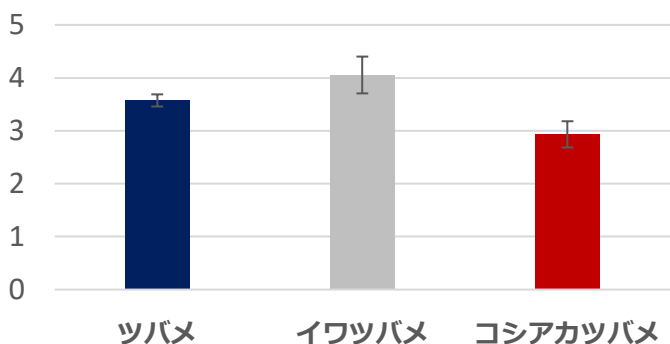
1巣が約40%を占めましたが、2巣以上も59%（データなしが2%）あり、1巣でも集団でも子育てをするということが分かりました。



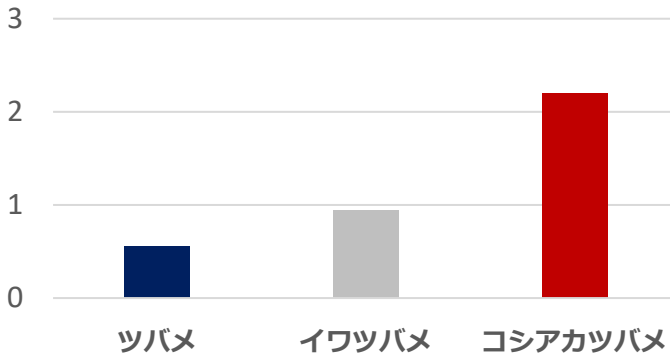
巣の周りの環境…

各巣から半径1,000m以内に含まれる環境情報
(河川、海岸線、農地、森林、草地、住宅地、水辺)の平均値を求めました。

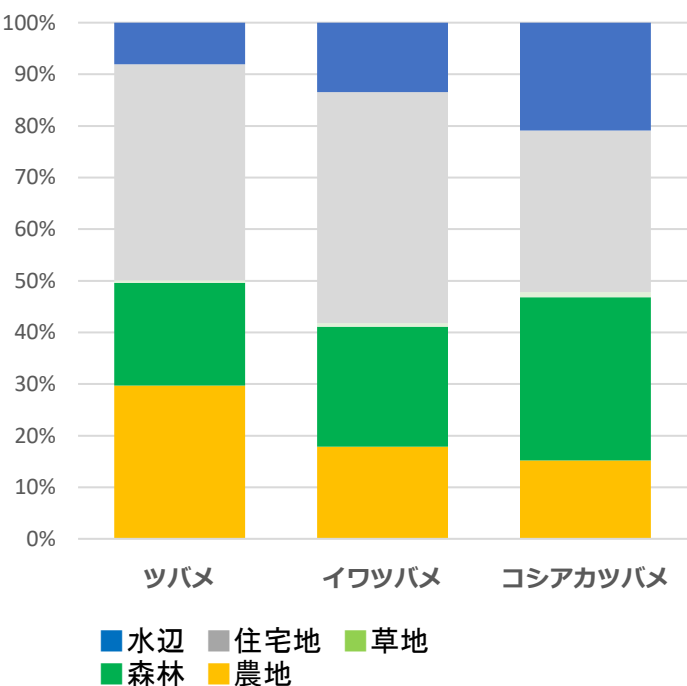
河川の長さ(km)



海岸線の長さ(km)



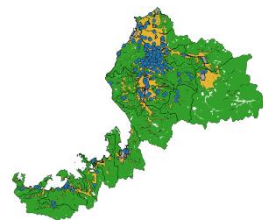
巣周辺の環境割合



● **ツバメ** 解析：281巣
→河川沿いの農地、住宅地に巣をつくる

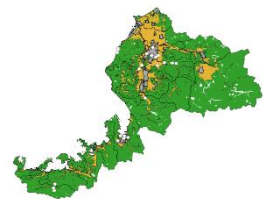
巣の周りには比較的、河川が多く含まれ、農地と住宅地の割合が高かったです。

河川と農地は餌(昆虫)をとるために、住宅地は巣をつくる場所として重要だと考えられます。



● **イワツバメ** 解析：33巣
→河川や住宅地の周辺に巣をつくる(暫定)

巣の周りには比較的、河川が多く含まれ、住宅地の割合が高かったです。今回は巣をつくった建物の種類まで調べませんでした。イワツバメは河川にかかる橋に巣をつくるのが知られています。そのため、巣の周りに河川や住宅地が多く含まれていたと考えられます。今後の調査では、巣のある建物の種類まで調べていきたいと思います。



● **コシアカツバメ** 解析：64巣
→海岸沿いに巣をつくる(暫定)

巣の周りには海岸線が多く含まれ、他2種に比べ水辺の割合が高かったです。他の地域でも海岸沿いの建物に巣をつくるのが知られています。しかしマップを見ると、県北部(嶺北地方)の内陸部にも比較的多くの巣がつけられています。巣の周りに含まれる河川も少なくないことから、内陸では河川の近くに営巣しているようです。

